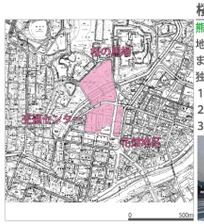
桜町ラボ

2008年度社会基盤設計演習Ⅰ・Ⅱ
児玉 菜月・小林 優一・住野 百合奈・田島 春香
中村 遼・野崎 渉太・前田 明子・森 麻衣子・山野 弘隆

桜町ラボとは

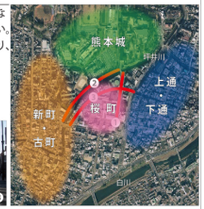
熊本市の中心に位置する桜町周辺では交通センター、桜の馬場、花畑地区の再開発構想が進んでいる。
これに対して、桜町の可能性を様々な視点から探り、再開発の方向性を提案していく…
それが“桜町ラボ”である。



桜町の特徴

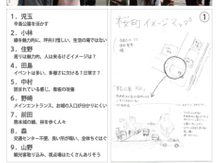
熊本城、新町・古町、上通・下通といった特徴的な地域に囲まれ、坪井川や白川という地形要素も近い。また、住民の方によるまちづくり活動が盛んであり、独自に3つの重要整備箇所を提言している。

1. シンボルロードのトランジットモール化
2. 坪井川右岸の遊歩道整備
3. 県道熊本高森線の歩道整備

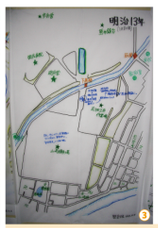


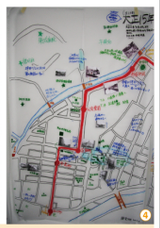
桜町調査

現地調査では各自の桜町に対する第一印象からイメージマップを作成し、これらを元に4つの調査項目（歴史・現地・交通・データ）を立て、グループ作業を行った。
調査結果は住民や行政の方に発表をして、提案に向けた意見交換を行った。



歴史班／前田、森、山野、稲永（星野研）

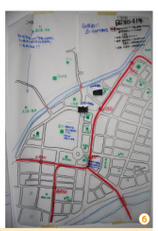


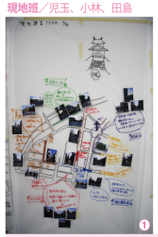


歴史班は江戸時代（1850年頃）、明治13年（1880年）、大正15年（1926年）、昭和15年（1940年）、昭和41年（1966年）の古地図を元に桜町周辺の区画の変遷を追った。それぞれのシートには用途、施設、路面電車などを書き加え、古写真とも照らし合わせながら多様なまちの変化を整理した。

明治13年では、現在の桜町はほとんどが練兵場として使用され、周辺も軍施設の集まる場所であった。大正15年になると路面電車が敷設され、現在の交通センターは専売局の用地となる。周辺には映画館ができるなど、市民の賑わいが感じられる場所となっていった。

現地班／児玉、小林、田島





昭和15年をみると路面電車の路線が増えていることがわかる。これに伴い、電車通り沿いが繁華街となり（地図上の斜線部）、現在の下通を中心とした賑わいとは異なるまちが形成されていた。路面電車は昭和28年をピークに路線が減少し、現在に至る。
昭和41年の桜町は官公庁街へと姿を変えている。

現地班は桜町を「メインストリート」「辛島公園前通り」「電車通り」「坪井川沿い」「裏」の大きく5つの場所に分け、それぞれの現状把握と人の行動パターンについて調べた。この結果、金峰山などの山並みが街路の先に見えることや、老若男女の人々が行きかう場所であることが分かった。

交通班／住野、小嶋（星野研）

交通班はバスと路面電車が走る事例を国内外で調査し、熊本の現状と比較分析した。また、バス路線の再編を目標として、方面別の路線整理、ターミナル機能の分散などを検討した。
また、周辺の駐車場についてプロットし、再開発後に必要な駐車台数を調査した。

データ班／中村、野崎、中川（星野研）

熊本都市圏概況
熊本駅
電停
バス停
駅
電車
バス
人口
人口密度
高齢者人口
高齢者人口密度
人口増減率
人口増減数
人口増減率
人口増減数
人口増減率
人口増減数